

児童発達支援 図解実務教材 03

個別支援計画書 の書き方

図解と3パターンの作成見本で学ぶ

児童発達支援 単独型事業所向け



はまなす行政書士事務所

2026年10月版

個別支援計画書の書き方

場面を読み 図でつかみ 文例から書き上げる



家族の願いが明日の準備になった

「困ったときに伝えられるようになってほしいんです」。母の話を聞きながら、Aは悠さんの指さしを思い出しました。伝える力は、すでに遊びの中にありました。

本人が今使える方法を、職員が支える計画にします。本書では、本人と家族の希望から、目標、準備、関わり方、確かめ方を一つにつなぎます。

対象は児童発達支援の単独型事業所です。悠さん4歳6か月を扱う物語と、氏名・日付・数値・会話はすべて学習用の架空設定です。

02 場面の前後をたどる

書類に残すことは、現場の一場面から見つかります。登場する A は児童発達支援管理責任者、B・C は支援担当職員、S は言語聴覚士です。

願いを聞くと場面が見えた

母が思い浮かべていたのは、道具がうまく扱えず困る場面でした。A は「どんなときに助けが届くとよいでしょう」と尋ねます。場面が決まると、目標も方法も、暮らしに結び付けて考えられます。

今使っている伝え方から始める

悠さんは、単語や指さしで希望を伝えています。A と職員は、本人が使いやすい方法を選ぶよう、ことば、指さし、カードを支援に入れました。カードをどこに置くか、伝えた後にどう応じるかも決めます。

計画を読むと準備ができる

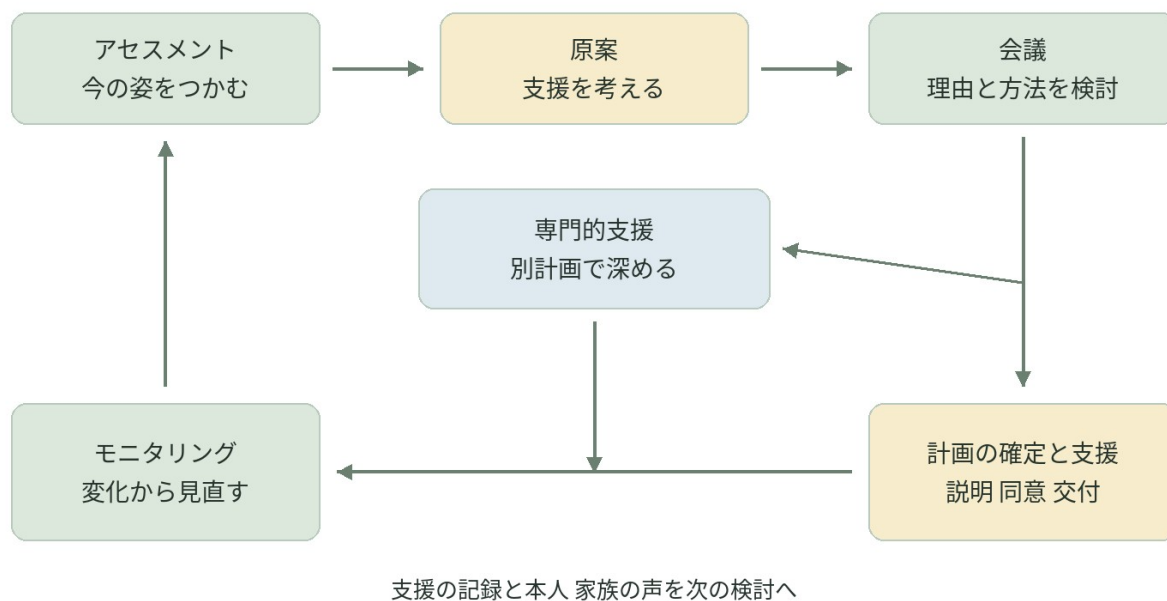
原案には、職員がカードを用意し、本人が選ぶ時間を確保し、表出後に援助する方法が入りました。家族とは家庭で使いやすい方法を相談し、同意を得て園とも共有します。願いが、本人と周囲の具体的な行動につながりました。

書く前に持っておく視点

国の記載のポイントは、本人と家族の意向、総合方針、目標、具体的な支援を関連付けて記す考え方を示しています。本書では、願いを一つの生活場面へ絞り、職員の行動まで書く練習をします。

03 この書類が支援につながる場所

五つの書類は、本人に合う支援を続けるために使います。黄色の箇所は、この冊子で特に学ぶ場所です。専門的支援は、全体の計画と関連付けた別計画で進めます。



読む順番を選ぶ

初めて書く方は4～6頁で考え方と聞き方をつかみ、7～12頁で3パターンの作成見本を比べましょう。13～15頁は文章と判断の実践、16～17頁は演習です。18頁で自分の事例を書き、19～20頁で手続と根拠を確認できます。

架空例の流れは、7月2日・3日の面接と観察、7月6日の原案検討、7月7日の説明・文書同意・交付、7月9日の支援開始です。9月29日に見直しを行い、更新へつなげます。

04 原案から交付まで 順番を守る

児童発達支援管理責任者が、本人・家族の意向とアセスメントを踏まえて原案を作ります。管理者がこの業務を担当させ、職員や専門職の情報も生かして進めます。原案を会議で検討してから、説明・文書同意・交付へ進みましょう。

情報と原案 7/1 契約、7/2・3 面接と観察、7/3 原案作成。

支援担当者等の会議 7/6 原案の目標・方法・本人の意思を検討。会議の決定を反映する。

説明と文書同意 7/7 本人に写真で説明、母へ内容・期間・時間を説明し文書同意。

交付と開始 7/7 母と担当する指定障害児相談支援事業者へ交付。7/9 計画に沿う支援開始。

原案と確定版を取り違えない

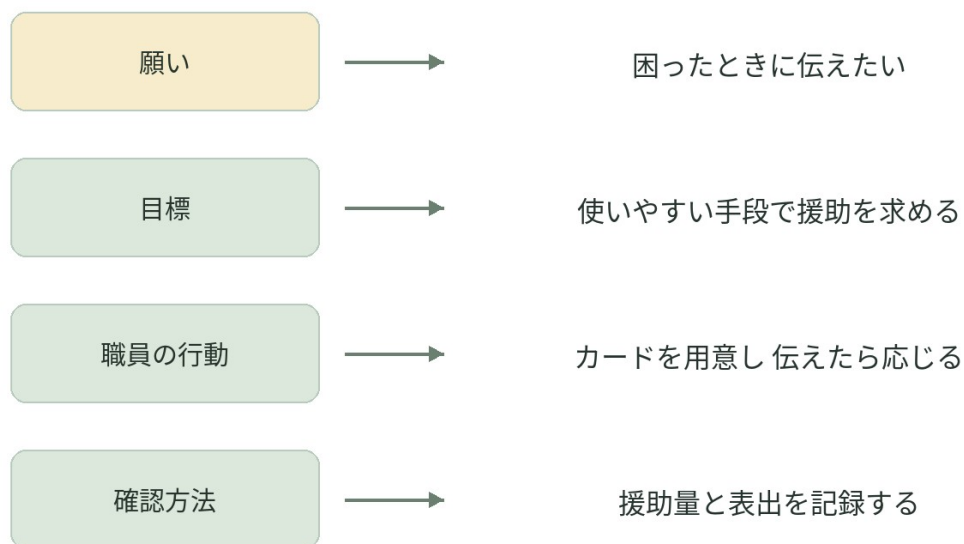
原案と確定版は、版と日付で追えるようにします。会議で修正した内容、説明日、保護者の文書同意日、交付日を残します。同意を得た確定版を、支援の共通資料として使います。更新時も同じ流れで進めます。

電子的な手続は、相手方の承諾等、基準に沿う条件を確かめて運用します。同意した人、内容、日付と、保存・交付の経過を確認できる形に整えましょう。

堺市では、やむを得ない場合を除き、利用契約後に一連の業務を行います。契約前の情報も参考にしながら、契約後の本人と家族の姿を確かめ、原案を作ります。

05 図から書き方をつかむ

国の記載のポイントは、本人と家族の意向、総合方針、目標、具体的な支援を関連付けて記す考え方を示しています。本書では、願いを一つの生活場面へ絞り、職員の行動まで書く練習をします。



図を記入する文章へ移す

目標は、本人が暮らしで使える力と、必要な環境から考えます。母の「園で安心して過ごしてほしい」という願いなら、援助や休憩を伝えること、次の活動が分かることを支援に結び付けます。

本人支援は5領域の視点を踏まえ、関連する領域を明示します。一つの支援に複数の領域が関わる場合は、その関係を説明しましょう。家族支援と移行支援も記載し、地域支援・地域連携は必要に応じて具体化します。

06 会話から記録の材料を集める

会話は、具体的な生活場면을聞くところから始めます。次の例では、役立っていることを共有し、その条件を記録の材料にします。

母 家でも毎日練習したほうがよいですか。

A 家庭で続けやすい方法を、一緒に選びましょう。

母 入浴の写真なら、今も使えそうです。

A 使ってみた場면을、次の面談で伺います。

この聞き方で分かること

家族が続けやすい方法を計画へ入れられます。説明の記録には、質問、回答、修正希望、同意の対象版と日付を残します。

本人の表出も聞き取りの一部にする

悠さんは、単語や指さし、写真の選択で希望を示します。本人が実際に示した方法と場면을記し、家族の話と合わせて理解します。挿絵のカード選択も、この架空例を理解するための表現です。

07 作成見本 1 悠さん 計画の土台

原案は7月3日、会議は7月6日、説明・文書同意・交付は7月7日です。支援期間は7月9日～2027年1月8日とし、9月29日に途中の見直しを行う架空例です。

本人の意向 ブロックを選び、終了時に「まだ」と伝える。大きな音が重なると耳をふさぎ、静かな机を指す。好きな遊びと休息の選択を支援に反映する。

保護者の意向 困ったときに伝えられる方法を増やしたい。園で安心して過ごせるよう、園と同じ予告方法を相談したい。

総合的な支援方針 好きな遊びを起点に見通しと選択肢を用意し、本人の表出を受け止める。ことば、指さし、写真など本人が使いやすい方法を選ぶ。家族と園には、本人の負担が少ない方法を一緒に検討する。

長期目標 今後約1年を見通し、安心して活動に参加し、困ったときや休みたいときに自分に合う方法で周囲に伝えられる。

短期目標 今後3か月で、終了の予告と選択肢を使うと移りやすい場面を増やす。困った場面で、見本1回以内の援助要求を増やす。

予定の支援時間 火・木曜 10:00～11:35、1回 95分。別表の曜日・時間と本文を一致させる。送迎や延長等は実態・制度に合わせて別途確認する。

見直し・担当 児童発達支援管理責任者 A が 9/29 に本人・母の面接と記録を確認。生活変化や強い負担がある場合は早める。

予定時間は計画へ、実際に提供した時間はサービス提供記録へ残します。両方を確認できると、計画した支援と実施状況の違いを整理できます。

08 作成見本 1 悠さん 明日から行う支援

本人支援①

担当 B・C

3か月 終了写真と片付け箱、次の活動・追加1分・休憩の選択肢を用意。2分前に予告し、声かけは重ねない。終了後2分以内に次の場所へ移る機会を5機会中4機会程度にする。移動の結果と本人の表出・負担を記録。関連：認知・行動、言語・コミュニケーション、健康・生活。

本人支援②

担当 B・言語聴覚士 S

3か月 自然に困った場面で、ことば・指さし・カードを使える位置に置く。見本1回以内で援助を求める機会を5機会中3機会程度にする。要求後は援助し、出ない場合も必要な助けを行う。関連：言語・コミュニケーション、人間関係・社会性。

本人支援の環境調整

担当 B・C

毎回 音が重なる場合は静かな位置と休憩を選べるようにする。本人の耳をふさぐ等の表出を受け止め、参加と休憩を本人が選べるようにする。音・人数・本人の反応を記録。関連：運動・感覚、健康・生活。

家族支援

担当 A

月1回相談 母と家庭で続けられる予告方法を相談。写真を試すかは母と本人の意向に合わせ、回数の宿題を課さない。相談内容・負担・希望を確認する。

移行支援・地域連携

担当 A

7月～9月 母の同意を得て園と予告・休憩方法を共有し、園の集団場面で使いやすい方法を検討。9月に本人の様子と園の実施負担を確認。共有先・範囲・方法を記録する。

支援内容には、本人が安心して選べる条件も入れます。耳をふさぐ、休憩を示すなどの表出があれば、休息や活動の調整を行います。その後の参加と負担を確かめ、方法を見直しましょう。

09 作成見本2 芽衣さん 希望と計画の基本情報

芽衣さん 3歳8か月 本人 ID U02 学習用の架空記入例

作成と手続 対象 U02 芽衣さん。Aが5月11日に原案を作成し、5月12日に支援担当者等の会議で検討。5月14日に本人と母へ説明し母の文書同意を得た第1版。母と担当指定障害児相談支援事業者へ同日交付。

計画期間と提供時間 2026年5月18日～11月17日。月・水曜10:00～11:35、1回95分。予定時間は別表と一致させ、実際の提供時間はサービス提供記録に残す。

本人の意向 動物遊びを選びたい。人の出入りが多い場面では静かな椅子を選んだ。本人の選択を来所時の待機と遊びの開始へ反映する。

保護者の意向 朝の支度と別れ際の負担を減らし、本人が困ったときに使いやすい方法で助けを求められるようになってほしい。

総合的な支援方針 静かな待機位置と分かる写真を用意し、本人が選んで動ける条件を整える。身ぶりと写真による伝達に応じ、家族と園が続けやすい方法を相談する。

長期目標 今後約1年を見通し、来所や園の身支度で見通しを持ち、必要な援助と休息を本人に合う方法で伝えられる。

短期目標 今後3か月で、写真と見本1回以内の助けて靴を収納する場面を増やす。自然な援助機会に写真または身ぶりで希望を伝える場面を増やす。

見直しと担当 Aが8月28日に本人・母へ面接し実施記録を確認する。負担や生活の変化があれば確認時期を早める。

10 作成見本 2 芽衣さん 具体的な支援と確認方法

芽衣さん 3 歳 8 か月 本人 ID U02 学習用の架空記入例

本人支援 1 身支度 優先 1 目標：靴棚の写真と必要時の見本 1 回以内で、靴を棚へ入れる機会を 5 機会中 3 機会程度にする。方法：B・C が静かな待機位置と棚の写真を用意し、一つずつ提示。休む選択にも応じる。3 か月、人数、援助量、収納と負担を記録。関連：健康・生活、認知・行動、運動・感覚。

本人支援 2 援助要求 優先 2 目標：自然な援助機会、写真または身ぶりを使い見本 1 回以内で援助を求める機会を 5 機会中 3 機会程度にする。B・C が写真を手の届く位置に置き、表出へ速やかに応じる。表出の有無にかかわらず必要な援助を行う。3 か月、手段と援助量を記録。関連：言語・コミュニケーション、人間関係・社会性。

専門的支援との関連 作業療法士 Q が専門的な評価から、靴棚の配置と動作を支える条件を検討し、本人支援 1 に関連する別計画を作成する。実施前に目的・方法を説明し同意を得る。週 1 回 35 分を予定し、本人の状態と要件を確認して実施する。

家族支援 目標：母が家庭で続けやすい身支度の方法を一つ選べる。A が月 1 回相談し、写真 1 枚の位置と声かけを母と決める。3 か月、使えた場面と負担を確認する。

移行支援と地域連携 目標：園の身支度場面で本人が選べる方法を関係者で共有する。A が母の同意を得て 5 月 22 日までに園へ聞き取り、写真の位置と休息の取り方を共有。8 月に本人の姿と園の実施負担を確認する。

説明と同意の記録 5 月 14 日、本人へ動物遊びと静かな椅子の写真で説明。母は写真を増やす負担を質問。家庭では 1 枚から相談すると回答し、修正後の第 1 版へ母の文書同意を得た。説明者 A。

11 作成見本3 陸さん 希望と計画の基本情報

陸さん 5歳5か月 本人 ID U03 学習用の架空記入例

作成と手続 対象 U03 陸さん。Aが8月6日に原案を作成、8月7日に支援担当者等で検討。8月10日に本人と父へ説明し、父の文書同意を得た第1版。父と担当指定障害児相談支援事業者へ同日交付。

計画期間と提供時間 2026年8月11日～2027年2月10日。火・金曜 10:00～11:35、1回95分。別表へ予定時間を記載し、実際の提供時間を記録する。

本人の意向 車を友だちと使いたい。「まだ使う」と伝えたい。一人で道を作る遊びも選びたい。本人の希望を遊び方と順番の選択へ反映する。

保護者の意向 友だちに希望を伝え、園の遊びに安心して参加できるようになってほしい。困ったときは大人にも相談できる方法を考えたい。

総合的な支援方針 好きな車遊びで双方の希望を確かめ、要求と順番が見える形にする。大人の仲介を用意し、待つ、別の玩具、一人遊び、休息を選べるようにする。家族と園へ方法をつなぐ。

長期目標 今後約1年を見通し、友だちとの遊びで自分の希望を伝え、相手の表出も大人と確かめながら遊び方を選べる。

短期目標 今後3か月で、2人遊びの自然な要求場面で相手へ希望を伝える機会を増やす。順番が見える条件で短い待機を経験し、本人に合う選択を使える。

見直しと担当 Aが10月2日に本人・父へ面接し記録を確認する。途中の負担や園の変化があれば、確認時期を早める。

12 作成見本 3 陸さん 具体的な支援と確認方法

陸さん 5 歳 5 か月 本人 ID U03 学習用の架空記入例

本人支援 1 要求の伝達 優先 1 目標：自然な玩具要求場面で、見本 1 回以内で言葉またはカードを使って相手へ伝える機会を 5 機会中 3 機会程度にする。B が本人の選んだ 2 人遊びで要求カードを用意し、双方の表出へ応じる。相手の意思も確認する。3 か月、手段、援助量、相手の反応を記録。関連：言語・コミュニケーション、人間関係・社会性。

本人支援 2 順番と選択 優先 2 目標：順番カードと必要時の見本 1 回以内で、次の番まで約 30 秒待つ機会を 5 機会中 3 機会程度にする。B・C が見えるカードと安全な動線を用意。別の玩具や一人遊び、休息にも応じる。3 か月、待機時間と負担を記録。関連：認知・行動、健康・生活、運動・感覚、人間関係・社会性。

専門的支援との関連 言語聴覚士 S が相手へ伝える方法を評価し、本人支援 1 に関連する別計画を作成する。本人と父へ事前に説明し同意を得る。週 1 回 35 分を予定し、個別での評価と方法を日常の 2 人遊びへ共有する。

家族支援 目標：父が家庭の玩具場面で双方の希望を聞く方法を選べる。A が月 1 回相談し、「使う」「あとで」の聞き方を一場面から検討する。3 か月、使えた場面と負担を確認する。

移行支援と地域連携 目標：園の遊びで本人が伝える方法と大人の仲介を共有する。A が父の同意を得て 8 月 14 日までに園へ聞き取り、順番の示し方を相談。10 月に本人の使用場面と園の負担を確認する。

説明と同意の記録 8 月 10 日、本人に車と一人遊びの写真を示して方法を説明。父の「全員で待つ練習をするか」という質問に、本人と相手の選択に合わせて進めると回答。修正後の第 1 版へ父の文書同意を得た。説明者 A。

13 家族の願いを計画文に仕上げる

願いの中の生活場面を選ぶ

目標は、本人と家族の暮らしに役立つ形にします。母の「困ったときに伝えられるようになってほしい」という願いから、遊びの道具が扱いにくい場面を選びます。自然に援助が必要になった機会を支援に生かします。

今使える方法を入れる

悠さんには単語と指さしの強みがあります。写真二択も選べます。この強みを使い、ことば・指さし・カードから本人が伝えやすい手段を選べるようにします。

目標文へ仕上げる

文例：自然に援助が必要になった遊びの場面で、ことば・指さし・カードのいずれかを使い、見本1回以内で援助を求める機会を5機会中3機会程度にする。3か月、表出の方法、援助量、本人の負担を確認する。

支援文を一組にする

文例：B・Cがカードを手の届く位置に置き、本人が選ぶ時間を確保する。必要時は見本を1回示し、表出後は速やかに応じる。表出の有無にかかわらず必要な援助を行う。記録は自発・見本1回・追加の促しに分ける。

この文章を書く理由

目標は本人の使える方法、支援文は職員の準備と対応を示しています。家族支援では家庭で続けやすい伝え方を相談し、移行支援では同意を得て園と方法を共有します。事業所での成果と家庭・園の情報を、それぞれ確認して評価しましょう。

14 短いメモを伝わる文章に整える

文例 1

書き始めのメモ 社会性を向上させる。

支援につながる文章 好きな遊びで作品を見せる場面を作り、なじみの職員が応じる。本人が選んだ相手とのやり取りから広げる。

文例 2

書き始めのメモ 切替をスムーズにする。

支援につながる文章 終了を写真で予告し、追加時間・次の活動・休憩を選べるようにする。移動までの時間と負担を確認する。

文例 3

書き始めのメモ 保護者へ助言する。

支援につながる文章 月 1 回、家庭で負担の少ない予告方法を相談し、使えた点と困った点を次回に確認する。

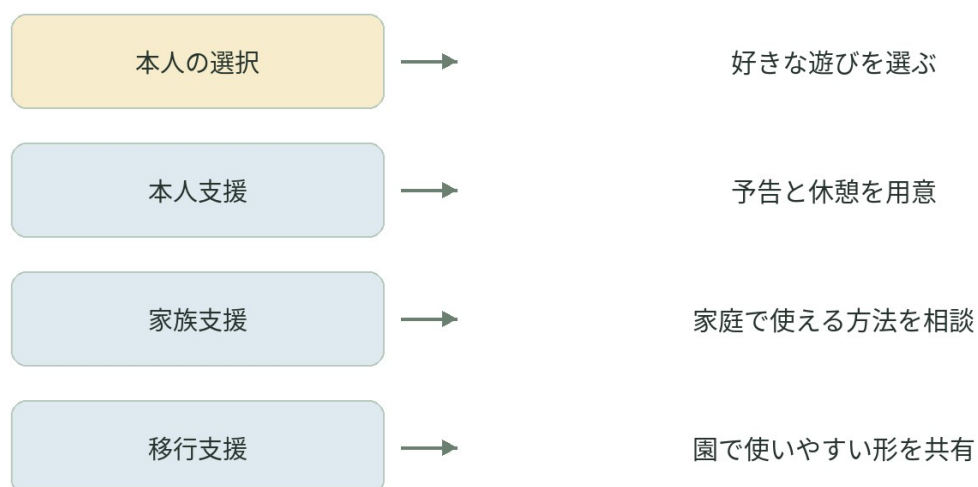
文例 4

書き始めのメモ 園と連携する。

支援につながる文章 保護者の同意を得て、担当 A が園へ予告・休憩方法を共有し、9 月に実施状況を聞き取る。

職員の準備と対応を書き足すと、目標を実施する方法が読めます。本人の選択や負担も確認します。

15 判断の手がかりを図で整理する



説明では、本人・家族と支援のイメージを共有します。希望に合う目標か、方法と予定時間が伝わったか、修正したい点があるかを確かめます。本人には、活動と休憩の写真や具体物を使いましょう。

現場で確かめること

7月7日、Aが母へ方針、目標、方法、予定時間、見直し予定を説明。母の「毎日練習が必要か」という質問には、生活で続けやすい方法を一緒に選ぶと回答。本人はブロックの写真を選び、休憩写真も確認した。希望を確認して第1版への母の文書同意を得た。

計画と一連の手続を管理することは、個別支援計画未作成減算の確認にも関わります。請求判断は、実際の経過と現行の基準・取扱いを照合して行います。

16 場面を読んで書いてみる

原案は「集団活動に最後まで参加する。声かけを行う」です。悠さんは音が重なると耳をふさぎ、好きな少人数遊びには参加できます。本人の選択と、職員が整える条件を含む計画に書き直しましょう。



答案を書く順番

場面の事実を選び、支援の条件を添え、次に行うことを決めます。自分の答案を書いてから、次頁の解答例と比べましょう。

17 解答例から書き方を確かめる

解答例

目標：本人が選んだ少人数遊びで、写真の見通しと休憩の選択を使い、安心して参加できる場面を増やす。3 か月、参加時間、本人の選択、休息後の参加、負担を確認する。

支援内容：B が開始前に写真で流れを示し、静かな位置と休憩場所を用意する。耳をふさぐ、休憩写真を指す等の表出があれば休息を支える。なじみの職員と好きな遊びから始め、再参加も本人が選べるようにする。

家族・移行支援：母と園の困り場面を確認する。同意を得て予告と休憩の方法を園へ共有し、園の環境で使いやすい形を相談する。

解説

この解答は、目標と職員の行動がつながっています。活動前の準備、本人の表出への対応、評価する姿まで書くと、翌日の支援を具体的に実施できます。

自分の答案を読み返す

本人の姿と、周囲が用意した支援をそれぞれ指で示してみましょう。次にすることが読めれば、記録を支援へつなげられます。文例の数値や方法は、本人と場面に合わせて選びます。

18 自分の事例で一枚を作る

最初は、確認できた事実から書きます。情報源と日付、本人の希望、役立つ条件を添え、事業所の正式様式へ整理して転記します。

本人の意向／保護者の意向を別々に

総合的な支援方針／強みと環境調整

長期・短期目標／期間と優先順位

本人支援の目標・方法・担当・評価

関連する5領域／その理由

家族支援／移行支援／必要な地域連携

曜日と予定時間／見直し予定

会議・説明・同意・交付／版管理

19 実務で必要な手続を確認する

原案を検討してから確定する

アセスメントから原案を作り、支援担当者等の会議で検討します。本人と保護者へ説明し、保護者の文書同意を得て、保護者と担当指定障害児相談支援事業者へ交付します。変更時も手続を進めます。

内容と時間を記載する

本人支援と5領域の関係、家族支援、移行支援を記載し、地域支援・地域連携は必要に応じて具体化します。予定の支援時間と実際の提供時間は、それぞれ計画と提供記録へ残します。

版と保存を管理する

原案、同意済みの版、説明と交付の日付を管理します。電子的な手続は基準に沿う承諾等の条件を確認します。国の基準第54条の対象記録は、支援提供日から5年間保存し、指定権者の期間と起算点も照合します。

言葉の意味を確かめる

原案 会議と説明で検討する、確定前の計画。

移行支援 園など地域の生活の場で過ごすために、方法や環境をつなぐ支援。

計画期間、目標数値、教材の配置、会議の進行時間など、本書の架空例の設定は、本人と事業所の状況に合わせて調整します。

20 完成を確かめ根拠資料へ進む

- ☐ アセスメントとつながる。
- ☐ 本人・家族の意向が読める。
- ☐ 方針・目標・方法が一致。
- ☐ 5 領域との関係が明確。
- ☐ 家族支援・移行支援を記載。
- ☐ 必要な地域連携を具体化。
- ☐ 担当・期間・評価・時間が明確。
- ☐ 会議・同意・交付が追える。

参照した国と自治体の資料

指定通所支援の運営基準

第 27 条：計画作成・モニタリング／第 54 条：記録保存／第 83 条：電磁的な手続

個別支援計画の記載のポイント

5 領域との関係、本人支援・家族支援・移行支援等の記載

児童発達支援ガイドライン（2024 年 7 月）

第 3 章：支援の内容／第 4 章：個別支援計画の作成と支援

堺市 指定障害児通所支援事業者等に対する運営指導について

2026 年 4 月 1 日更新：利用契約後の計画作成手順、支援時間等

資料確認日 2026 年 10 月 4 日。本書は、はまなす行政書士事務所の独自制作教材です。物語、文例、図解、挿絵は学習用に制作しました。参照資料の趣旨を踏まえた作成方法の提案と、制度上の手続を区分しています。運用時は最新の通知と指定権者の取扱いを照合します。